

埼玉県農業水利審議会 現地調査の概要 （平成28年7月29日）

① 神流川沿岸地区（神川町・上里町）



神流川沿岸発電所（小水力発電所）



神流川頭首工

「神流川沿岸地区」は、県内で唯一、農業用水を活用した「小水力発電」に取り組んでいるほか、農業水利施設の余剰地に「太陽光発電」施設を設置し、得られた売電収入を農業水利施設の維持管理経費に充当し、組合員の負担軽減を図っている。

また、大規模な国営事業を導入して、広大な地域を対象とした基幹的農業水利施設を整備したことにより、安定的な取水と配水が行われている。

今回の現地調査においては、施設を管理している「埼玉北部土地改良区連合」から、各施設の概要や、「小水力発電」及び「太陽光発電」により得られた売電収入とその影響等について説明を受けた。

② 江袋溜井・福川地区（熊谷市）



「江袋溜井・福川地区」では、農業用水を効率的に利用するため、「溜井」による水利用を行っている。

この「溜井」は慶長年間に開発されたものであるが、現在においても、福川に集まる他地域の落ち水を「溜井」を介することにより反復利用するという独特の水利用を実現し、この地域の重要な農業用水施設として活用されている。

また、雑木が生い茂り水路や沼に近づけない状況であったこの地域では、「川のまるごと再生プロジェクト事業」を活用することにより、遊歩道の整備による地域資源のネットワーク化や、自然石を活用する等、景観や環境に配慮した整備を行った。

今回の現地調査においては、この地域を管轄する大里農林振興センターから、この地域の水利用や、「川のまるごと再生プロジェクト」による整備状況について説明を受けた。